

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4471200180
法人名	医療法人土生医院
事業所名	グループホームあじさい
訪問調査日	平成20年 8月22日
評価確定日	平成20年11月20日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4471200180
法人名	医療法人 土生医院
事業所名	グループホームあじさい
所在地 (電話番号)	豊後大野市三重町大字内田字六反2541番地 (電話)0974-22-8064

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年8月22日	評価確定日	平成20年11月20日

## 【情報提供票より】(平成20年 7月21日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成18年 4月 3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.5人

## (2)建物概要

建物構造	木造り	
	1階建ての	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,525 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200円		

## (4)利用者の概要(平成20年 7月21日事業所記入)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.9 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 土生医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 住宅が点在する丘の中腹にあり、グループホームの周囲は栗の木をはじめ樹木が多く、四季を楽しめる環境にある。
- 2 医療法人が母体で、職員に看護師2名、栄養士がおり、医療面で安心できるグループホームである。
- 3 管理者をはじめ職員は、ケアの充実を目指して努力し、利用者が安全で穏やかに過ごせる暮らしを支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の評価結果について検討はしているものの、改善シートを作成しておらず、改善に向けての取り組みが十分とは言えない。具体的な改善計画を立てることが望ましい。
	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が参加するミーティングで外部評価の意義と効用を話し、それぞれの立場で自己評価を行っている。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回行われ、参加メンバーについては事業所の責任者、市の職員が毎回参加し、議題も多岐にわたっている。今後の取り組み内容なども取り上げている。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居者の写真を添えた毎月のお知らせや電話による報告など、家族への連絡はこまめに行われており、また、普段から家族が意見を言いやすい関係性作りを心がけている。苦情があった際には直ちに施設長へ報告し、改善に向けての話し合いを行っている。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事などにおける相互の交流は十分にできているが、危機管理面における地域連携が今ひとつであると思われる。今後、日常の交流や話し合いにおいて、非常時についての話し合いが行われることが望ましい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、その人らしい生活が継続できるよう、職員みんなで考えて作り上げた理念である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時には理念を確認して、全職員で理念の実践につなげている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事のあじさい祭りやチューリップ祭りに参加している。また、保育園児が年に数回訪問をしてくれ、看護学生のボランティアも受け入れている。施設の夏祭りには住民を招待して、相互が行き来する交流を持っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が参加するミーティングで外部評価の結果を報告し、改善箇所について検討しているがそこから進んでいない。	○	昨年の評価結果について改善シートを作成し、具体的な改善計画を立てて改善につなげるように期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、参加メンバーは、事業所の責任者、市の職員、家族の代表などがきちんと出席している。議題も多岐にわたり、今後の取り組みの内容なども検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に数回、市が主催して介護サービス事業所を対象に研修会を行っている。それに積極的に参加してサービスの質の向上につなげている。また、運営の相談や報告のために市に出かけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書の送付時に、利用者の近況を手紙にして写真なども添えて家族に送っている。面会時には暮らしぶりなどを話し、頻繁に来ない家族には電話で連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を行って家族と職員の懇談の機会を設け、言いやすい雰囲気になるようにしている。また、苦情窓口を設置して家族にこれを知らせ、苦情があった場合には施設長に報告して職員間で話し合い、直ちに改善を行うようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最低限にするように努め、この2年間で1回だけである。また、新規の利用者は同法人のデイサービスからくることが多く、普段からの職員の行き来で、顔見知りとなっている人が多い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の資格取得を応援し、各種の援助や勉強会への参加を推奨している。また、外部研修会では内容を定例会で報告させて共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療法人が経営する久住町の「グループホームくたみのもり」と交流会を行い、お互いを訪問している。また、同市内のグループホーム2箇所と交流できるように現在準備を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず見学をお願いし、入居が決まれば家庭訪問を行って信頼関係を築くようにしている。また、急な入居の場合には家族の面会を頻繁にしてくれるよう話し、早く馴染めるよう図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを念頭において接するよう、管理者は職員にいつも話している。利用者の能力に応じた役割を担ってもらえるよう、畑の収穫、配茶、洗濯物たたみなどを一緒に楽しみながら行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から、その人の目線に沿って思いや意向を理解するように努めている。また、家族から収集した情報は記録して共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人および家族からの情報を元に介護計画を作成しているが、職員間のプランについての話し合いがなく、職員の意見が介護計画に十分に反映されているとは言えない。	○	本人の実情に合った具体的な目標を定め、それに沿って職員がケアにあたることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の入居期間が長くなり、慣れとともに現状に即した介護計画の見直しが不十分となっている。	○	現状に即した介護計画は利用者がよりよく暮らすために欠かせないものとして、期間ごとの、また緊急時の見直しが必要である。利用者個々人の課題やケアのあり方について、いつも新鮮な目で見、現状に即した見直しを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	朝食は声かけにより、時間を強制することなく食べてもらっている。受診や希望のところへの外出は、家族が行けない時は出来るだけ応じ、行きつけの美容院への付き添いも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医にかかっている人は1人いるが、あとは当医療法人で定期受診を行っている。急変時や体調不良時には往診で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に運営者である医師が家族と話し合いをして、重度化やターミナルについての意思確認を行っている。同意書などの書類も整っている。また、グループホームでの看取りの経験もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損なう言葉を使わないよう、出来るだけ尊敬語を使うよう、管理者は職員に日ごろから話をしていく。また、記録の取り扱いについては事務室に保管して、外来者の目に触れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の時間の過ごし方について、業務の都合を優先させることの無いよう、職員に個別支援の大切さを話している。また、希望を聞く際も、こちらの希望を誘導させることのないように気をつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや味見、配膳を手伝ってもらい、その人の状態に合わせた形態の食事を用意して、食事が楽しいものになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を基本にしているが、個々の利用者の希望や身体状況、時間に合わせて入浴が出来るように支援している。また、今年度は入浴嫌いの人に、進んで入ってもらえるような工夫や誘い方の研究を始めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の身体能力の見極めを大切にして、役割や楽しみごとの支援をしている。また、漬物や保存食の作り方などを利用者から教えてもらい、一緒に作って楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が外に行くためには玄関外に数段の階段があり、また降りたところは砂利道なので一人での外出はできない。そこで、誘い合って外に行くようにして、危険なところは職員が誘導して、出来るだけ外出の機会を確保するようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解しており、日中は玄関と部屋の鍵はかけていない。建物の外回りが高齢者にとっては危ないので、様子をよく観察し、見守りによって一人で外に出ることのないよう職員間で気をつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害への備えについては避難経路の確認や消火器の点検、連絡体制などよく準備されている。また、3日分の食料や水の確保もしている。しかし、消防署や近隣との避難訓練や連絡体制などが整備されていない。	○	グループホーム内部だけの準備や訓練にとどまらず、消防署等との連携は不可欠なものとして、今後の取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は記録され、定期的に法人診療所にチェックしてもらっている。メニューは管理栄養士が作ったものをグループホーム内で調理して提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すよう花や飾り物には工夫をし、お節句などの季節行事を取り入れている。ホールでは五感を刺激する料理の匂いや音が聞こえて、利用者に心地よい生活空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋という雰囲気を作り出せるよう、自宅で使い慣れた家具や品物を持ってきてもらい、家族の写真なども飾って、居心地よく過ごせる工夫をしている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人土生医院
(ユニット名)	グループホームあじさい
所在地 (県・市町村名)	豊後大野市三重町内田六反2541
記入者名 (管理者)	高橋 友子
記入日	平成 20 年 7 月 21 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	住み慣れた地域で、その人らしい生活が継続出来る様な介護環境を用意する。	○	誕生会等を利用して、その人の生活暦の情報を集め介護の方針の参考にする。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員全体で理念の内容と実践を理解し、毎日の申し送り等機会あるごとに確認している。	○	今年度より始まったケアカンファレンスにて職員全体で情報の伝達共有時に理念を確認する。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には入所時や訪問時に理念の説明を行い、ホーム見学者にも同様に理解を促している。	○	昨年度から開始した「グループホームだより」にて適宜理念の啓蒙を行っている。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩時、回覧板を回す時などに職員から挨拶を交わすように指導している。また近所の方が敷地に野菜を植えていただいたり、栗の収穫時に近隣に配布する等交流を心がけている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	市内の保育園が、年に数度訪問して頂いている。又看護専門学生のボランティア交流も行っている。あじさいまつり、チューリップまつり、その他他施設の夏祭り等に参加するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	様々な研修会に参加し、また資格取得を行い、介護力の充実を図っているが、今後居宅支援事業所の開設に伴い地域の高齢者に役立つよう考えている。現実には人手の問題もあり目下、検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員参加の毎月のミーティングで外部評価の結果等を報告し、随時改善点を話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在の取り組みや今後の取り組み内容を説明、報告し今後の方針等を検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修にも積極的に参加しサービスの質の向上についても協議、相談を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等にて学ぶ機会は作っているが現在までに該当事例は無い。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会時に虐待についての考え方、理解を深め、「言葉による虐待」「ネグレクト」など故意でなくとも虐待に相当するような場合を注意し、全職員で虐待防止に努めている。身体等を入浴時に観察し、自宅等の虐待にも注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、認知症対応共同生活介護利用契約書(利用料・医療・看取り等)全て平易な言葉で説明し理解同意を得るように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で発言や態度行動から気持ちを察し、場合により居室で話を聞くこともある。利用者に要望があればミーティング等で話し合い運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には年2回の家族会を行い、職員全員が参加する懇談会で要望を組み取るようにしている。面会時にも暮らしぶりを随時説明している。病変時は診療所と相談をし適宜電話連絡を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記以外にも苦情窓口を設けており(氏名掲示)面会時、電話等により言い易い雰囲気心がけている。あまり事例は無いが、ある場合は施設長に報告し、直ちに改善を図っている。	○	目安箱の設置を検討している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はミーティング、定例会で話し合い、運営に反映させるよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の重度化に伴い、介護の質を維持するため個々の職員の技能の向上、また職員数の維持確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は馴染みの問題もあるが、入居者は長期滞在が多くマンネリ化を防ぐため最低限の転属に留めている。働きやすい環境に勤め最近数年間はかなり職員の固定化は実現しつつある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の報告を定例会で行い、研修内容を出来るだけ共有化するようにしている。また定例会では数人にテーマを与え、報告させている。更にケアマネージャー等の資格試験に備えて各種援助、勉強会を法人内で行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームくたみのもりと交流会を実施した。今年度はくたみのもりの職員が当施設を訪問した。	○	同市内の他施設と理事者レベルで交流の交渉中である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を用意し休憩時間を確保している。勤務表にて夜勤、休みの均等性を図っている。やむを得ない場合は事情を説明し職員の同意を得るように努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に対する支援を行い、勉強会等にて向上心に対する配慮を行っている。勤務表等は施設間共同で作成し最終的には法人に報告し公平性を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に見学に来てもらったり、職員が自宅に出向くなど入居前に馴染みの関係を作るなどの工夫をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人や家族と面会し困っている事、施設に対する要望、入居後の希望を聴いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人と家族の気持ちを聞き、サービスの限定はせずにサービス計画を立てるように努めている。(現制度では他のサービスを利用することは禁止されていないが現実的には不可能な場合が多い)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の施設見学、家庭訪問を通じて信頼関係を築く努力をしている。緊急な入居の場合は、家族の面会等を頻回に行い安心感を持てるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である事を常に念頭に置いて、その能力に応じて役割を担ってもらい、擬似社会参加を工夫している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時ホームでの生活の様子をお伝えし、場合により一緒に食事をとられたり、またある程度の時間を共有できるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に可能な限り外泊、外出を依頼し、また面会などを通じて本人の孤独感を癒すように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人などの面会を勧め、また家族に依頼して美容院等、馴染みの店の利用を出来るだけ継続している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事おやつの時に座る位置を人間関係に応じて配慮し、会話が円滑になるように心掛けている。その時々に合わせて変えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後には年賀状など季節の挨拶を出したり、他の病院、事業所に移られた方には面会に伺う等の関係の継続を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での言葉、態度などから本人の希望を汲み取るように気をつけている。また家族との会話から情報を集め、入居されている方の目線に沿って理解するように注意している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述のように家族本人との間からまた知人等から情報を集め、出来るだけ入居前の生活環境を考慮した暮らしが出来るように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりのリズムに合わせリハビリ体操、食事内容、昼寝、就寝等を配慮している。また心身状態等も適宜加味し生活介護をしている。残存機能は次第に低下することが多くその変化にも合わせるようにしている。	○	今年度よりケアカンファレンスを開始し、ケアプラン変更のための情報の検討を始めたが、この会を利用して職員全体で入居の方の暮らしの現状の理解に努めることにした。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在までは問題点などを随時把握し、介護者また家族より情報を集め対処している。	○	今後は職員全体で、ケアカンファレンスを通じて、より深いケアプランの理解に努め、体系的な情報収集を元に一貫した介護方針で対処したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状では大きなケアプランの見直しは少ないが、入居期間が長くなるにつれ、残存機能低下が大きくなる為、ケアカンファレンスを通じて細やかなケアプランの見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常記録(食事量、水分量、排泄等の身体状況)は、表にし職員全員が大まかな状況を確認できるようにしている。出来る限り暮らしの様子、発言等を表に記録している。	○	今後はセンター方式の導入を見据えて記録のトレーニングを実施している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当該医療法人主治医による月1回の定期受診を行っている。利用者の身体状況に応じて、訪問歯科サービスを受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、民生委員、消防署と連携を取り協力を依頼している。ボランティアの訪問等を随時検討している。(神楽、演奏会 etc)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の要求に応じ、訪問美容サービス、介護用具販売業者を紹介、活用している。	○	法人の居宅介護支援事業所の開設に伴い、より多くの情報を集めて細やかな対処をしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会等を通じ情報交換、協力体制を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に主治医が継続している場合を除き、当医療法人で定期受診を行っている。また急変時や体調不良時は訪問診療等で随時対処している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設の母体の医療法人診療所にその都度相談し指示を受けている。必要な場合は診療所経由で精神科等の受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師もスタッフの一員として勤務している。法人診療所の看護師とも常に連携をとり、相談をしている。有床診療所であり、24時間連絡対応可能。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は診療所経由で行うため医療機関との早期退院に向けた協働は診療所医師が主に行っているが随時診療所と連携をとりながら訪問し状態経過の情報収集を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時より診療所医師が家族と面談し、本人や家族の意思を確認している。その方針に従い必要な時には診療所と連携して対処している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	多くの場合は医療機関に転出を希望することが多いが看取りを希望する重度や終末期の家族が不安なく過ごせるように診療所医師、看護師と話し合いながら行っている。看取りを含め24時間体制で臨めるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までに実績はないが、必要な場合は居宅支援事業所を通じ、家族、利用者の希望に沿うように配慮したい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に基づく施設内規約に則り、定例会、ミーティング時に徹底を図っている。記録物は事務室に保管し施錠している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事に関すること、生活に関することは出来るだけ利用者の希望を取り入れるよう筆談支援等にて対処している。また希望を誘導しないような配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望の表出、自己決定にも関連するが、大きな一日の生活の流れはあるとしても個々の状況、希望に合せた個別支援を努力している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を尊重している。自分で出来ない利用者は介護者が一緒に行っている。美容等は本人の馴染みの店を優先しているが個々の状況に応じて訪問理容を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況により、食材の下準備、味見、配茶、配膳をしてもらっているが、時には職員とともに焼肉、お好み焼き等を楽しんでいる。また行事ごとの際に外食等を計画している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	当施設は火災予防、健康のため禁酒、禁煙は絶対条件としている。但し、花見等の行事ごとには少量のアルコールを出している。その他の嗜好品に対しては出来るだけ希望に沿うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、尿意のない方もその人のパターンに合わせてトイレ誘導を行い、夜間オムツ使用者も日中は必ずトイレ誘導し快適な排泄の支援を心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介護の都合で入浴を決めるのではなく、個々の利用者の希望や身体状況(汗、汚染の有無)時間に合わせた支援をしている。	○	入浴は健康維持のために必要なものであり、一概に本人の希望を優先するのみでは問題がある。今年度は入浴嫌いの対処に重点を当てたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その日の身体状況に応じて休憩したり、就寝してもらう様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢者が多いため、体力、残像能力の問題もあるが、能力に応じて配茶、配膳、洗濯物たたみなどの役割を行っている。さらに漬物、梅干の作り方など利用者の知恵、経験を発揮する場を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族よりお金を預かり、職員が事務室で管理している。買い物、行事ごとの際に利用者の残存能力に応じてお金の所持、使用を支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望、能力に応じて庭の散歩、外出を行っているが、出来るだけその機会を設けるように誘導している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの外出行事を計画し、主に市内ではあるが医療法人の車等を利用し遠出のドライブを行っている。その際買い物、食事等を行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族とも電話対応をしている。その際、子機等を利用したり、事務室の電話機を使いプライバシーの保護を配慮している。 家族、友人、親戚等への季節の挨拶の支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	就寝等の妨げにならない限りはいつでも訪問できるよう面会時間を決めず家族、利用者の希望に応じて出来るだけ居心地よく過ごしてもらうように設定している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、ミーティング等で身体拘束に関する勉強会を行い、知識、認識等の統一を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな時は、前もって一緒に散歩に行ったり、職員間で注意し見守りや、声かけを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は必ず作業中注視し、常にさりげなく見守っている。廊下の移動時、各部屋を見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて注意をしながら見守る。危険性の高い物を使用した際は必ず所定の位置に仕舞う。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの検討を定例会で行い、状況の把握、原因、対策を共有化し、職員全員で疑似体験として介護に活用するようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定例会で研修報告を行い、診療所のスタッフの指導の下にトレーニングを行い、マニュアルも作成した。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ミーティング時、避難経路、消火器の場所の確認、連絡体制等の確認を行っている。ライフラインの切断を想定し、3日間の食料、水の確保を行っている。	○	消火訓練、避難訓練(9月)に予定。ヘルメットの購入。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時、面会時、施設長より家族へ説明し理解を得られるよう努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、状況に応じて最低1回以上のバイタルチェックを行い身体状況の異常が感じられた際には当法人の診療所に報告、連絡し指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも内容把握出来る様、処方箋をファイル作成している。服薬時、本人と介護職員が共に確認し、服用後口腔内に残っていないか確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄時にバイタル表に記入し確認しながら、トイレにて排泄してもらえらる様腹部マッサージ等を行っている。状況により下剤、浣腸を診療所の指示にて行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	定例会、ミーティングで勉強を行いチェックリストを作成している。入所後も適宜作成し介護の情報として役立てている。口腔内の状況、義歯の状況により、介護支援している。	○	口腔内リハビリに合わせて行い誤飲の防止、気道感染の予防に役立てている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量等は、バイタル表に記入し常時確認できるようにしている。カロリー面は病状により当法人診療所に相談している。調理は各施設ごとに利用者に合わせているが、メニューは基本的に病院に合わせている。	○	職員に栄養士もおり、今後病状に応じた調理に取り組みたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定例会でその都度勉強を行い、感染症の理解と認識に努めている。ペーパータオル、手袋などのディスポの物品の使用で感染の拡大防止を日頃より行っている。インフルエンザ等の流行性のものは、家族の同意を得て、予防接種など職員ともに行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日メニューに合わせて購入している。余った食材に関しては冷蔵庫内の定期チェックを行っている。(賞味期限、鮮度状態) 調理器具等の清潔に努めている。また、調理前後の手洗いを励行している。体調不良の職員は調理業務を交代している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	当施設では、敷地が広く遊歩道がありベンチ等を設置している。玄関周りには、花壇、プランターを置き、季節ごとの花を用意している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所での料理の音、匂いなどは利用者の五感を良い意味で刺激している。季節感を出すために掲示板へ月ごとの手作り作品を展示している。節句には人形等を飾るなど季節行事を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルは着席位置を決めている。その時々々の状況により臨機応変に変更している。またソファ等を利用し仲の良い方と話が弾むようにしている。車椅子の位置も同様に工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた小物、椅子などの家具を可能ならば持ってきてもらっている。基本的にリネンは業者が管理しているが、入所前に使用していた寝具を一部利用することもある。利用者の気に入っている写真等も持参してもらって自分の部屋であるという雰囲気作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール、トイレでは24時間換気扇使用。 外気温を見ながら自然による換気も行っている。冷暖房は各部屋に設置しているが、主に廊下の機器を使用し、天井の扇風機で間接的に屋内の気温の調節を行っている。必要に応じて各部屋の冷暖房も使用している。加湿器を使用し、冬は湿度にも気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には段差なく、手摺りが設置され、各部屋にはトイレ、洗面所があり、自立した生活を出来るだけ維持するような環境を整えている。高齢化により次第に車椅子使用が増えてきたが、可能な限り自立を支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口、トイレにひとりひとりの花マーク、リボンを付け混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節により庭の木陰を利用し、遊歩道を散歩したり、屋外でお茶会をしたりしている。収穫期には利用者、近隣家族の方と栗広いなどを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・運営母体が医療法人なので高齢者に必要な医療が密着しています。
- ・当施設は高台の適度の自然環境の中、文教地区にあります。
- ・人の流れもあり、四季折々の景観の変化の中で季節感を味わう穏やかな生活が送れます。
- ・画一的ではなく個別的な支援が出来るよう心がけています。